

2014年度東北芸術工科大学入学式 祝辞

2014年4月6日

尾池和夫

東北芸術工科大学に入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。ご家族の皆さま、ここからお祝い申し上げます。

今年、大学に入学する皆さんの中の多くの方々にとって、中学校を卒業されるころ、東日本大震災があり、震災で、あるいは津波によって、被害を受けた方もおられるでしょう。また、大切な友人や知人を失った方もいると思います。原子力発電所の重大事故のために避難を余儀なくされ、仮設の高等学校校舎で入学式を迎え、仮設のまま卒業式を迎えた方もおられることでしょう。

そのような状況の中でも、皆さんは学習に励みつつ、みごとに今日の入学式を迎えられました。東日本では数百年、あるいは1000年に1度というような巨大地震の発生と、それによる震災、また人類が経験したことのない規模の原子力発電所の過酷な事故など、皆さんはそのような歴史を経験しながら、また、世界で初めて人口がピークを過ぎて減少に向かい始めているという国で、世界の人類がまだ経験していない歴史の中で、自らの人生を設計していこうとしておられます。まだ、だれもが知らない、未来の姿を、それぞれにご自分の力で描いていかなければなりません。

そのような皆さん方に、私たちの世代ができることは何かというと、私たち自身が発見してきた事実の蓄積、それをもとに考えてきた智恵の蓄積、開発してきた技術の蓄積、そして多くの貴重な才能によって残された芸術作品であります。歴史の中で人類は多くの遺産を残してきました。世界的に認められる文化遺産がたくさんあり、守らなければならない地球の自然があり、壊したら取り返しにつかない自然環境があります。また、それにもまして大量の核燃料物質、大量の廃棄物や戦争の爪痕など、人類が積み重ねてきた負の遺産もたくさんあります。

皆さんは大学でこれから多くを学び、卒業後の進路を設計しながら、職を得て新しい家庭を築きあげるための準備を始めなければなりません。自由にのびのびと楽しく学習しながら、また学園生活を謳歌しながら、現実の人生設計という大きな仕事が皆さんのこれからの課題です。それに今日からとりかかるといふ強い意志を持って、大学生活に突入して行ってほしいと思います。そして、1日も早く、大学生活の魅力を自らの手でとらえて、それに熱中してほしいと思います。

また、課外活動やボランティア活動にも、大いに参加してほしいと思います。例えば、この後で皆さんを歓迎して太鼓の演奏をする太恵のグループも、皆さんの先輩たちの活動

です。山形は縄文文化の地です。太鼓は縄文時代から情報伝達に使われていたと考えられています。日本には鼓と呼ばれる楽器が2種類あり、ばちでたたくものが太鼓、手でたたくものが鼓（つづみ）です。生きている私たちの体には、1 Hzの基本的なリズムがあります。1秒間に1回の鼓動があります。それに呼応する太鼓のリズムは、私たちをやる気にさせてくれるのです。

この大学と姉妹関係の京都造形芸術大学は、1300年の歴史を持つ京都市にあります。京都には700年代の初頭、大陸から渡来した秦氏が住み着いて、都の文化を生み出す下地をつくりました。京都市は京都盆地にあって、その盆地の分厚い堆積層に含まれる豊富な地下水をもとに、茶の湯が生まれ、京料理や酒が生まれ、古都京都の文化が育まれてきました。その伝統文化の中で芸術活動を行います。この大学にある『藝術立国之碑』と同じ黒御影石の碑が、京都造形芸術大学にも大階段を登ったところにあつて、その碑の3行の言葉が、両方の大学に共通の基本理念を示しています。

一方、この東北芸術工科大学のある山形は、国宝の縄文の女神をはじめ、石斧、縄文後期の土器と共に出土した青銅の刀、彩文土器の見事さ、技術レベルの高さなど、高度の縄文文化が知られており、やはり日本海の潮流に乗って大陸から渡来した文化があります。日本列島を西へたどれば、神話の舞台である出雲、日本海の離島である隠岐の文化があります。また、今の首都である東京には、神宫外苑のキャンパスで両大学の連携による活動が行われています。

このように、多様な文化を持つ日本列島の要を相互に結びながら二つの大学が交流し、共通に掲げる藝術立国の理念のもと、世界の平和を実現することを目ざして、皆さんとともに活動していくことを約束して、私の祝辞といたします。

あらためて、ご入学、まことにおめでとうございます。ありがとうございました。